

河和田公民館

「施設・公園」

- ・中山公園は、以前より利用しにくくなっており、クマ・サル・マダニ等の不安もあって、子どもを遊ばせにくい。
- ・JA 跡地が十分活用されておらず、地域活性化に生かしてほしい。
- ・猛暑時でも安全に遊べる室内遊び場がほしい。
- ・河和田方面と一乗谷方面を結ぶ道路・トンネル整備を進めてほしい。

「鳥獣害対策について（特に猿・イノシシ）」

- ・現状と被害：サルやイノシシが頻繁に出没し、耕作放棄地の増加が被害に拍車をかけている。猿は学習能力が高く、以前は有効だったロケット花火などの威嚇が通用しなくなっている。
- ・住民の不安：サルを威嚇すると逆に向かってくることがあり、住民は身体への危害を恐れている。丹精込めて作った作物を食べ尽くされ、栽培意欲を失う高齢者も多い。
- ・対策への要望：市からの補助によるエアガンやクマ用スプレーの導入検討。消防団のような「追い払いレンジャー」組織の結成。「野生動物との共生」は現実的ではなく、群れごと移動させるような抜本的対策が必要との意見。

「人口減少と教育・地域コミュニティ」

- ・児童数の減少：河和田小学校の児童数は現在 130 人を切り、3～4 年後には 100 人を切る見込みである。
- ・スポーツクラブの地域移行：学校の部活動が地域クラブへ移行しつつあるが、指導者の確保や、仕事を持つ指導者への報酬・補償が課題となっている。
- ・送迎の負担：競技種目によっては他地区まで行く必要があり、保護者の送迎負担を軽減するためのボランティア交通の活用が提案された。

「移動手段（公共交通）」

- ・ 現状: 河和田地区の高齢化率は 42%を超え、単身世帯も増加している。
- ・ ボランティア運行の限界: 現在、住民による乗り合い交通が行われているが、オペレーターや運転手の確保、保険費用の負担が重く、行政の継続的な予算支援が不可欠である。
- ・ 利便性の向上: バス停まで歩けない高齢者のためにドア・ツー・ドアの輸送や、越前町のメルシーのようなタクシー会社を活用した便利な仕組みの視察が提案された。
- ・ 冬期の歩道除雪が遅く、通学や移動の安全面に不安がある。

「行政運営と地域活性化」

- ・ 縦割り行政の弊害: 市の対応が縦割りであり、地区ごとの課題の優先順位を市民と共有し、予算に反映させる仕組みが不足している。予算委員会の設置による建設的な議論が求められている。

「観光資源の活用」

- ・ 河和田はメガネ発祥の地であるが、それを記念する碑がなく、観光機会を逸している。
- ・ ホテルは強力な資源だが、見物客による路上駐車や、近隣住民の生活（灯りへの苦情など）との摩擦が生じており、共存のための工夫が必要である。
- ・ ラポーゼかわだなどの施設と地域が連携し、利益が直接地域に落ちる仕組み作りが課題である。

「除雪体制の維持管理」

- ・ 住民除雪の負担: 別司町などでは住民がホイールローダーを操作して除雪を行っているが、オペレーターの高齢化が進んでいる。
- ・ 維持費への補助: 機械の操作に慣れない者が運転することで消耗が激しく、タイヤや爪（ブレード部分）の交換費用が高額になるため、市による補助率の引き上げが強く要望された。
- ・ 業者不足: 地元の建設業者が廃業しており、市外の業者は大型機械のため細い路地に入れないという問題も発生している。
- ・ 除雪支援制度はあるが、申請や調整が区長に集中し、負担が大きい。